

呼和浩特方言における単字調および“ 軽声 ”を伴う 二音節語の調形

著者	樋口 勇夫
雑誌名	名古屋学院大学論集 言語・文化篇
巻	17
号	2
ページ	13-32
発行年	2006-03-31
URL	http://doi.org/10.15012/00000850

呼和浩特方言における単字調および“軽声”を伴う 二音節語の調形

樋口 勇 夫

0. はじめに

樋口 (2004a) では、漢語諸方言における声調とストレスアクセントとの関係を、実験音声学的手法によって明らかにすることの一環として、漢語北方方言 13 種における単字調形と後字軽声二音節語調形とを比較し、両者の関係を探った⁽¹⁾。

また、樋口 (2004b~c・2005a~c) では、それぞれ西南官話の一種である昆明方言・成都方言・貴陽方言、および、晋語の一種である太原方言・平遥方言における、単字調形と所謂“重い軽声”を伴う二音節語調形とを比較し、両者の関係を探った。

本稿では、樋口 (2004a~c・2005a~c) 同様、実験音声学的手法により、岩田 (1999・2001) の見解に基づいて、呼和浩特方言における、単字調形と所謂“重い軽声”を伴う二音節語調形とを比較し、両者の関係を探る⁽²⁾。具体的な実験方法としては、呼和浩特方言の音声データを音声分析ソフトで分析し⁽³⁾、両者のピッチ (F0) および音節の長さを比較する。

岩田 (1999: 147-148, 152-156)・(2001: 24, 25-26) では、江蘇省連雲港方言の 3 種の軽声—前者では“Ⅰ類・高降・Ⅱ類”，後者では“ $LS(2) \cdot LS(3) \cdot LS(1)$ ”と呼ばれている—は、歴史的にこの順でストレスの左移動を生じた結果で、

ストレス左移動の順		①	②	③
後字のタイプ		“right spreading”	“高降”	“既定値” 保存
前字調類	単字調値	Ⅰ類= $LS(2)$	高降= $LS(3)$	Ⅱ類= $LS(1)$
陰平	214	214+5	214+41	214+1
陽平	24	21+5	21+41	24+1
入声	24	21+5	21+41	44+1
去声	45	44+5	44+41	45+1
上声	41	41+1	— — —	44+1

①は軽声の“既定値” (“低” という “声域特性”) まで失われてしまった “right spreading” (前字上声を除く)、②は “上声(41)” という特定の声調の声調特性を獲得した “secondary tone”，③は “既定値” のみ保存している、と考えている。

樋口（2004a）では、これらのほかに、「合肥・陰平」や「蘭州・陽平」の後字軽声のような、“低昇”タイプを、

地点	前字調類	単字調値	二音節語調値
合肥	陰平	21	21+23
蘭州	陽平	51	51+24

樋口（2004b・2004c）では、「昆明・陰平」、「昆明・陽平」、「昆明・上」、「昆明・去」や、「成都・陰平」、「成都・陽平」、「成都・上」、「成都・去」の後字軽声のような、“中平”タイプを、

地点	前字調類	単字調値	二音節語調値
昆明	陰平	33	33+33
昆明	陽平	31	31+33
昆明	上	53	53+33
昆明	去	212	212+33

地点	前字調類	単字調値	二音節語調値
成都	陰平	35	35+44
成都	陽平	31	44+44
成都	上	553	55+44
成都	去	213	213+44

樋口（2005a）では、「貴陽・陰平」、「貴陽・陽平」、「貴陽・上」、「貴陽・去」の後字軽声のような、“高昇”タイプを、それぞれ認めた。

地点	前字調類	単字調値	二音節語調値
貴陽	陰平	45	45+45
貴陽	陽平	21	22+45
貴陽	上	42	44+45
貴陽	去	24	24+45

本稿では、以上のような見解に従って、晋語の一種である呼和浩特方言の所謂“重い軽声”を観察する。

1. 連読変調表

邢（1998）から得られる二音節語語例を、筆者の聴覚的記述調値によって表にまとめると、以下の如くである。（以下、平声・上声・去声・入声を、それぞれ①・②・③・④で表わす。）

後字が変調しないものを「後重」とし、後字が 35・?4 に変調するものをそれぞれ「後軽 a」・「後軽 a'」、後字が 21・?2 に変調するものをそれぞれ「後軽 b」・「後軽 b'」、後字が 53 に変調するもの

を「後軽 c」, とする。但し, 「①/②/③/④+①」(後重)の後字は 21 に, 「②+④」(後重)の後字は・? 2 に変調する。

①(単字 31)は, 「①+①」(後重/後軽 b)・「①+②/③」(後軽 b)の前字では 32 に変調する。

②(単字 53)は, 「②+②」(後重 a)の前字では 31 に変調し, 「①+②」(後重)と変調結果が同じになる。これは, 「上声+上声」>「(陽)平声+上声」という北方方言に普遍的に見られる変調規則を反映したものであろう。

④(単字・? 4)は, 「④+①」(後軽 a)・「④+③」(後重)の前字では・? 2 に変調する。

「①/②/③/④+①」の後字①(21), 「①+④」の後字④(・? 4), 「②+④」の後字④(・? 2)はそれぞれ, 「後重」であるか「後軽」であるか判別できないので, 以下の表では両者の間に置き, 4. の表でも後字軽声の例としてタイプ分けを行なうことをしない。

「数」は得られた語例数を表わす。

前	後	① 31	数	② 53	数	③ 35	数	④・? 4	数
① 31	後軽 b'(後字・? 2)	31 +・? 2	2						
	後軽 b(後字 21)	32 + 21	29	32 + 21	2	32 + 21	1	31 +・? 4	13
	後重			31 + 53	5	31 + 35	5		
	後軽 a'(後字・? 4)	31 +・? 4	3	31 +・? 4	1				
	後軽 a(後字 35)	31 + 35	10						
② 53	後軽 b(後字 21)	53 + 21	10	53 + 21	5			53 +・? 2	16
	後重			a 31 + 53 b 53 + 53	6 1	53 + 35	3		
	後軽 b'(後字・? 2)	53 +・? 2	4						
③ 35	後軽 b(後字 21)	35 + 21	10			35 + 21	7		
	後重			35 + 53	6	35 + 35	4	35 +・? 4	1
	後軽 b'(後字・? 2)					35 +・? 2	3	35 +・? 2	16
	後軽 c(後字 53)	35 + 53	3			35 + 53	1		
④ ・? 4	後軽 b(後字 21)	・? 4 + 21	18						
	後重			・? 4 + 53	10	・? 2 + 35	10	・? 4 +・? 4	4
	後軽 b'(後字・? 2)					・? 4 +・? 2	1	・? 4 +・? 2	21
	後軽 a(後字 35)	・? 2 + 35	4						

「後軽 a」(後字 35)は, 「①/④+①」に現われる。

「後軽 a'」(後字・? 4)は, 「①+①/②/④」に現われる。

「後軽 b」(後字 21)は, 「①+①/②/③」・「②+①/②」・「③+①/③」・「④+①」に現われる。

「後軽 b'」(後字・? 2)は, 「①/②+①」・「③/④+③」・「②/③/④+④」に現われる。

「後軽 c」(後字 53)は, 「③+①/③」に現われる。

後字④以外で後字が?を伴うもののうち, 「①+①」の「後軽 a'」(後字・? 4)および「①/②+①」・「③/④+③」の「後軽 b'」(後字・? 2)は, それぞれ, 「後軽 a」(後字 35)および「後軽 b」(後字 21)が,

31 (①単字) > 35 (後軽 a) >・? 4 (後軽 a')

31 (①単字) > 21 (後軽 b) >・? 2 (後軽 b')

35 (③単字) > 21 (後軽 b) > ? 2 (後軽 b')

のように、更に弱化して短くなり、促音化したものと考えられる。「①+②」の「後軽 a'」(後字-? 4)については、「後重」(後字 53)が、

53 (②単字) > > ? 4 (後軽 a')

のように、長い“軽声”を経ず直接弱化して短くなり、促音化したものと考えられる。

2. 各形式所属語彙

得られた全ての各形式所属語彙を、声調の組み合わせ別に、以下に掲げる。

①+①

「後重/後軽 b」(32 + 21) 29 例

天河, 恹惶, 黄连, 难闻, 听听听一下, 中秋_{中秋节}, 今年, 明年, 来年_{明年}, 明天, 今天, 骚猪_{公猪(配种)}, 公鸡, 茅房_{厕所}, 厨房, 楼梯, 奔_颇额头, 脖颈_{脖子}, 槌头_{拳头}, 男人_{丈夫, 男人}, 蒸_馍馒头, 咸_盐盐, 勺头_{勺子}, 医生, 厨师, 着凉_{伤风}, 中间, 成心_{故意}, 精明_{明白}。

①+①

「後軽 a」(31 + 35) 10 例

衣裳, 东西, 葡萄, 爷爷, 星星, 馍_馍馒头, 馄饨, 便宜, 牛牛, 三三。

①+①

「後軽 a'」(31 + ? 4) 3 例

葵花_{向日葵}, 番瓜_{南瓜}, 人家。

①+①

「後軽 b'」(31 + ? 2) 2 例

阳婆_{太阳}, 他们。

①+②

「後重」(31 + 53) 5 例

辛苦, 中午, 山水_{洪水}, 牛奶, 红薯_{白薯}。

①+②

「後軽 a'」(31 + ? 4) 1 例

闺女_{女儿}。

①+②

「後軽 b」(32 + 21) 2 例

端午_{端午节}, 眉脸_脸。

①+③

「後重」(31 + 35) 5 例

星宿_{星星}, 菠菜, 圆菜_{卷心菜}, 烟洞_{烟囱}, 干净。

①+③

「後軽 b」(32+21)1 例

门限_{门坎}。

①+④

「後重/後軽 a'」(31+?24)13 例

除夕, 茄子, 山药_{马铃薯}, 房子_{全所}, 窗子_{窗户}, 脖子, 儿子, 包子, 勺子, 男的_{男人}, 厨子_{厨师}, 鸡子, 三子。

②+①

「後重/後軽 b」(53+21)10 例

打雷, 响雷_{打雷}, 起风_{刮风}, 母猪, 草鸡_{母鸡}, 伙房_{厨房}, 姥爷_{外祖父}, 老婆_{妻子}, 女人, 里头_{里面}。

②+①

「後軽 b'」(53+?2)4 例

我们, 你们, 咱们, 姐夫。

②+②

「後重 a」(31+53)6 例

滚水, 打闪, 洗脸, 左手, 保姆, 两里。

②+②

「後重 b」(53+53)1 例

捣鬼。

②+②

「後軽 b」(53+21)5 例

姥姥_{外祖母}, 炒炒_{炒一下}, 奶奶_{祖母}, 婶婶_{叔母}, 小小。

②+③

「後重」(53+35)3 例

脑袋_头, 老汉_{老头儿}, 跑肚_{泻肚}。

②+④

「後重/後軽 b'」(53+?2)16 例

好吃, 小麦, 老实, 起立, 冷子_{冰雹}, 指甲, 老子_{父亲(背称)}, 婶子_{叔母}, 小子_{儿子}, 女子_{女儿}, 女的女人, 拐子_{瘸子}, 走了_{死了}, 死了, 哪个, 马子。

③+①

「後重/後軽 b」(35+21)10 例

太阳, 日头_{太阳}, 大瓜_{南瓜}, 大爷_{伯父}, 大娘_{伯母}, 大妈_{伯母}, 爱人_{丈夫/妻子}, 面条, 酱油, 大夫_{医生}。

③+①

「後軽 c」(35+53)3 例

上头, 下头, 外头_{外面}。

③+②

「後重」(35+53)6 例

下雨, 大米, 右手, 正手_{右手}, 正好, 二两。

③+③

「後重」(35+35)4例

上冻^{结冰}，看病，治病^{看病}，第二。

③+③

「後輕b」(35+21)7例

舅舅，瞭瞭^{瞭一下}，大豆^{蚕豆}，爸爸^{父亲}，姪姪^{舅母}，大大，试试^{试一下}。

③+③

「後輕b'」(35+?2)3例

笑话，外父^{岳父}，近处。

③+③

「後輕c」(35+53)1例

盖盖。

③+④

「後重」(35+?4)1例

号脉。

③+④

「後輕b'」(35+?2)16例

上客，大雪，面饽，下雪，冻了^{结冰}，柿子^{西红柿}，耗子^{老鼠}，姪子^{舅母}，汉子^{丈夫}，筷子，病了，这个，那个，二十，第一，二子。

④+①

「後重/後輕b」(?4+21)18例

刮风，昨天，拉稀^{泻肚}，日脏^脏，圪丁，圪渣，圪痂，圪尖，圪抽，圪低，圪臃，圪噤，圪叭，圪抓，日粗^{吹牛}，日精，日玄，日能。

④+①

「後輕a」(?2+35)4例

核桃，石榴，各人^{自己}，惜人^{漂亮}。

④+②

「後重」(?4+53)10例

圪榄杆，圪搅，圪吵，圪朽，圪卷，忽点，忽眨，忽闪，日哄，日鬼。

④+③

「後重」(?2+35)10例

没调^{不懂规矩}，铁路，绿豆，吃饭，月亮，十二，圪蛋，忽跳，日弄，日怪。

④+③

「後輕b'」(?4+?2)1例

吃上。

④+④

「後重」(?4+?4)4例

圪缩, 圪节, 忽拍, 日恶。

④+④

「後軽 b'」(-ʔ 4 + -ʔ 2) 21 例

黢黑, 吃喝, 学习, 十月, 叔叔叔父, 歇歇歇一下, 麦子, 壁虱臭虫, 桌子, 鼻子, 圪膝膝盖,
拍着伤风, 这个, 那个, 十一, 钵钵, 角角, 拍拍名词, 学学学一下, 拍拍拍一下, 圪瘩。

得られた例を見る限り, 所属語彙には以下の如き傾向がある:

1. 動賓構造の語彙は, “下雪”が「③+④後軽 b'」に属すのを除き, それ以外は「後重」(乃至「後重/後軽」)に属している。
2. 名詞重ね型の語彙は, ①では「後軽 a」(後字 35)に, ②・④では「後軽 b/b'」(後字 21 / -ʔ 2)に, それぞれ属しているが, ③では「後軽 b」(後字 21)に属すもの 4 例,

舅舅, 爸爸父亲, 妯娌舅母, 大大

と「後軽 c」(後字 53)に属すもの 1 例,

盖盖

とに分かれる。

前字				
調類	調値	後軽 a	後軽 b/b'	後軽 c
①	31	31 + 35		
②	53		53 + 21	
③	35		35 + 21	35 + 53
④	-ʔ 4		-ʔ 4 + -ʔ 2	

3. 動詞重ね型の語彙は, 全て「後軽 b/b'」(後字 21 / -ʔ 2)に属している。

前字		
調類	調値	後軽 b/b'
①	31	32 + 21
②	53	53 + 21
③	35	35 + 21
④	-ʔ 4	-ʔ 4 + -ʔ 2

4. 接尾辞“头”(単字 31)は, 前字①・②では「後軽 b」(後字 21)に属しているが, 前字③では「後軽 b」(後字 21)に属するもの 1 例,

日头太阳

と「後軽 c」(後字 53)に属するもの 3 例,

上头, 下头, 外头外面

とに分かれる。(前字④の例は得られなかった。)

前字			
調類	調値	後軽 b	後軽 c
①	31	32 + 21	
②	53	53 + 21	
③	35	35 + 21	35 + 53
④	・? 4	—	—

5. 接尾辞“子”(単字・? 4)は、前字①では「後重/後軽 a'」(後字・? 4)に、前字②・③・④では「後軽 b'」(乃至「後重/後軽 b'」, 後字・? 2)に、それぞれ属している。

前字			
調類	調値	後重/後軽 a'	後軽 b'(後重/後軽 b')
①	31	31 + ? 4	
②	53		53 + ? 2
③	35		35 + ? 2
④	・? 4		・? 4 + ? 2

6. 接頭辞のうち、“忽[xuə?4]”・“日[zə?4]”は、全て「後重」(乃至「後重/後軽」)に属しているが、“圪[kə?4]”は、後字が④の場合、「後重」(後字・?4)に属するもの2例、

圪缩, 圪节

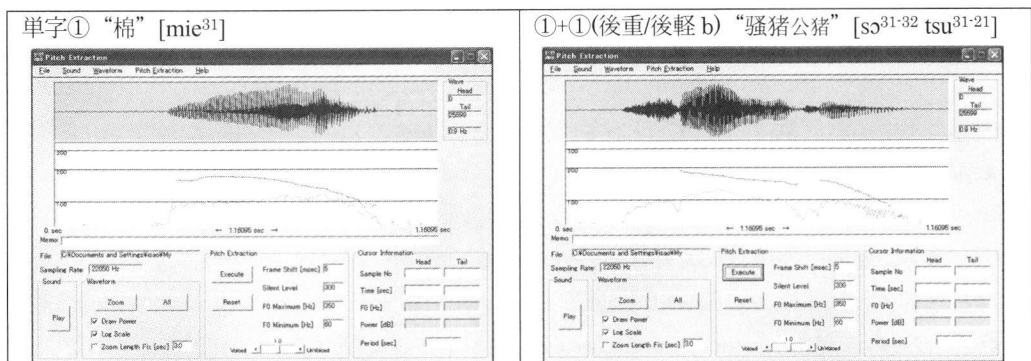
と、「後軽」(後字・? 2)に属するもの2例、

圪膝膝盖, 圪瘩

とに分かれる。

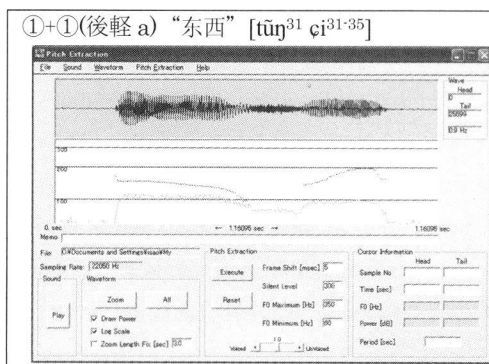
3. 各形式の例

音声分析画面に表示した各形式の例を、以下に掲げる。音声記述のうち、調値は筆者の聴覚的記述調値、それ以外は邢(1998)による。

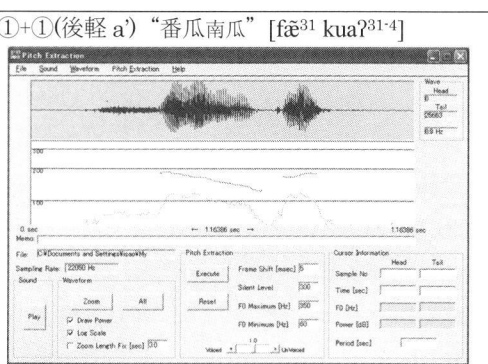


呼和浩特方言における単字調および“轻声”を伴う二音節語の調形

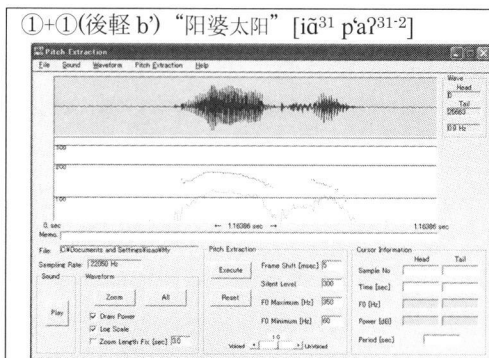
①+①(後軽 a) “东西” [tūŋ³¹ ci³¹⁻³⁵]



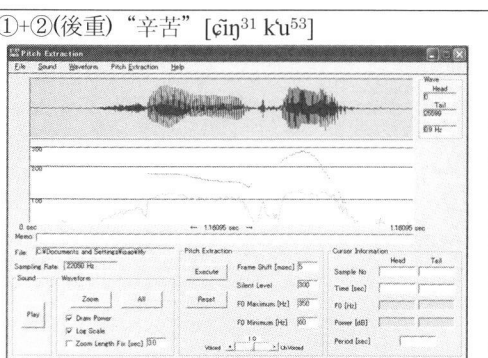
①+①(後軽 a) “番瓜南瓜” [fæ³¹ kua^{ʔ³¹-⁴}]



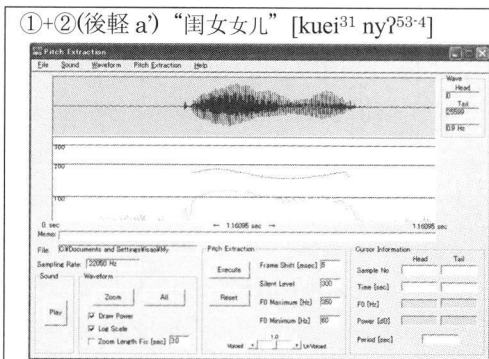
①+①(後軽 b) “阳婆太阳” [iä³¹ p'a^{ʔ³¹-²}]



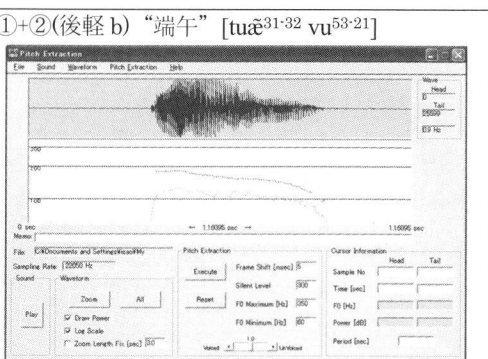
①+②(後重) “辛苦” [cṡŋ³¹ ku⁵³]



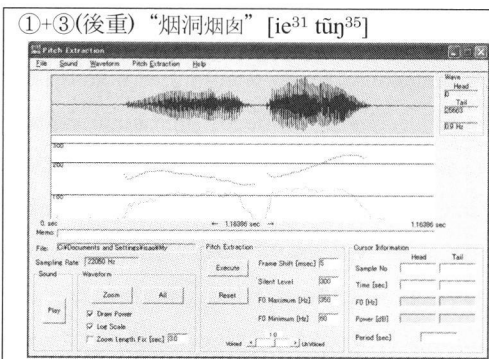
①+②(後軽 a) “闺女女儿” [kuei³¹ ny^{ʔ⁵³-⁴}]



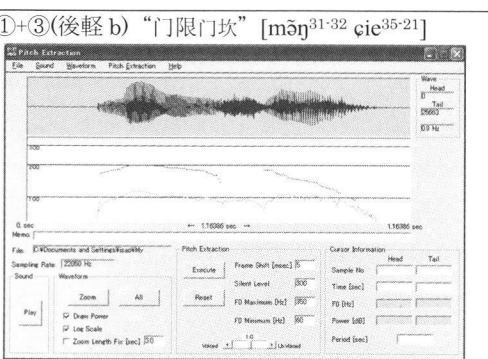
①+②(後軽 b) “端午” [tuä³¹⁻³² vu⁵³⁻²¹]



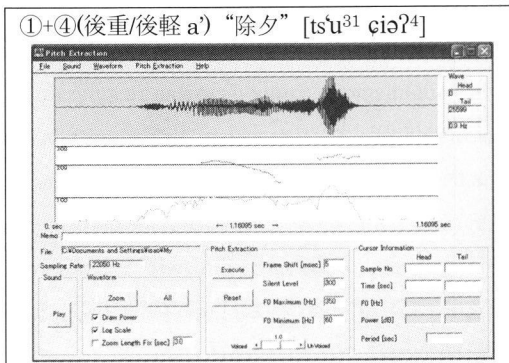
①+③(後重) “烟烟烟” [ie³¹ tūŋ³⁵]



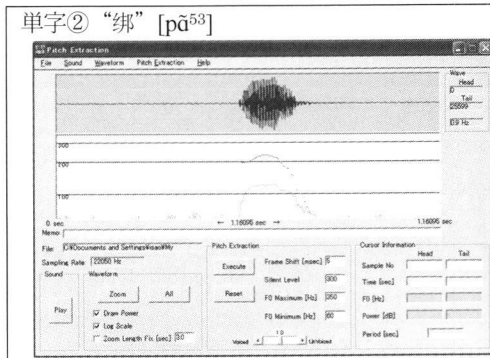
①+③(後軽 b) “门限门坎” [mōŋ³¹⁻³² ciē³⁵⁻²¹]



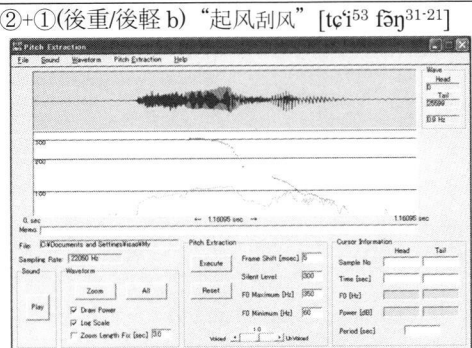
①+④(後重/後輕 a) “除夕” [ts'u³¹ ciə²⁴]



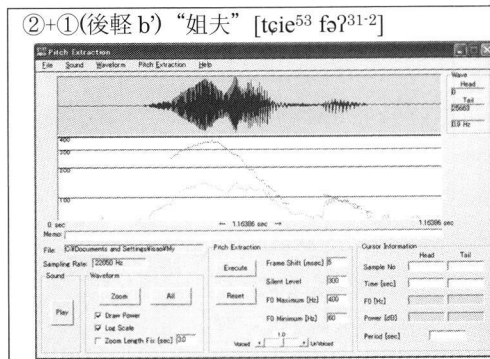
单字② “绑” [pā⁵³]



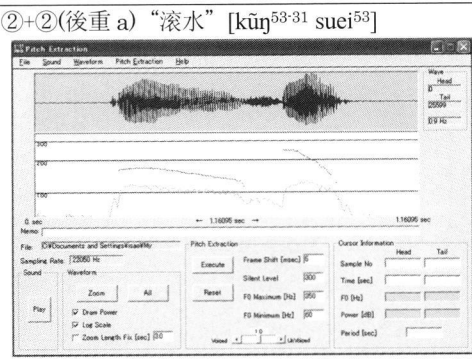
②+①(後重/後輕 b) “起风刮风” [tɕi⁵³ fəŋ³¹⁻²¹]



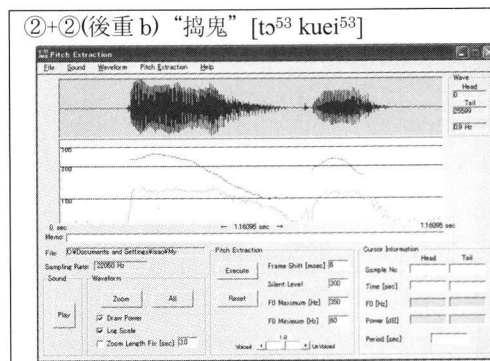
②+①(後輕 b') “姐夫” [tɕie⁵³ fə³¹⁻²]



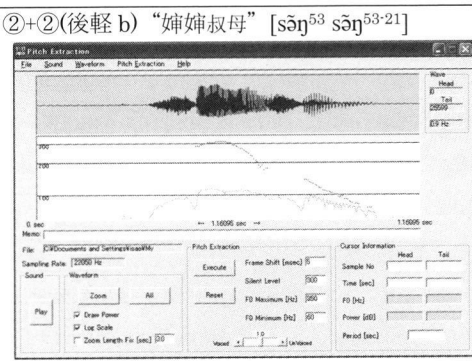
②+②(後重 a) “滚水” [kūŋ⁵³⁻³¹ suei⁵³]



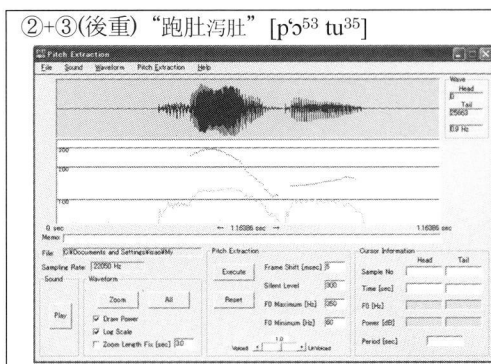
②+②(後重 b) “捣鬼” [tə⁵³ kuei⁵³]



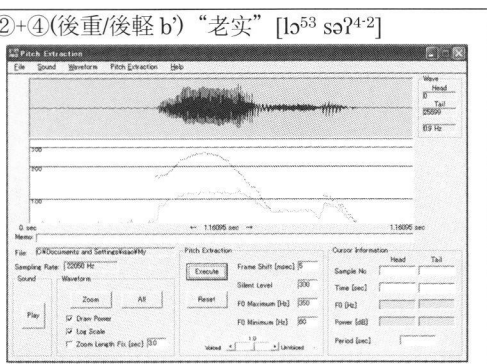
②+②(後輕 b) “婶婶叔母” [səŋ⁵³ səŋ⁵³⁻²¹]



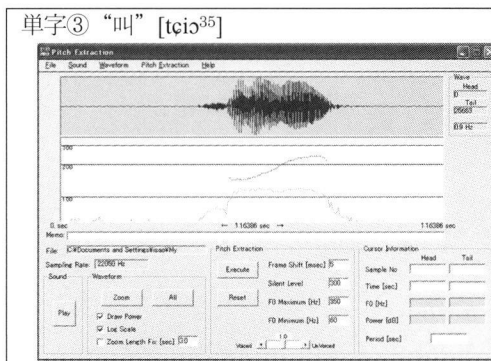
②+③(後重) “跑肚泻肚” [pʰʊ⁵³ tu³⁵]



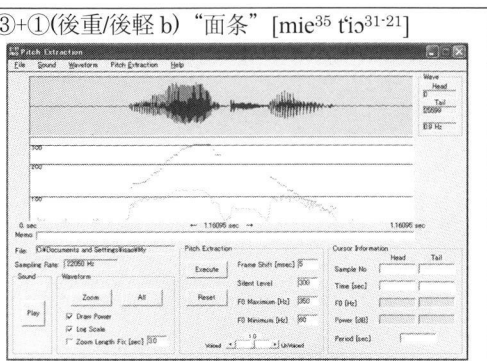
②+④(後重/後輕 b') “老实” [lɔ⁵³ sɔ²⁴⁻²]



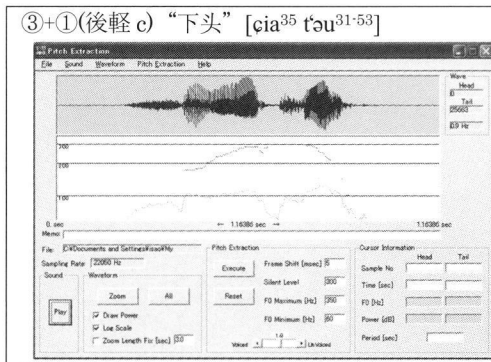
單字③ “叫” [tɕiɔ³⁵]



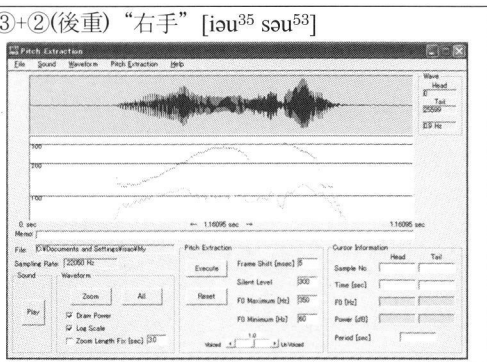
③+①(後重/後輕 b) “面条” [mie³⁵ tiɔ³¹⁻²¹]



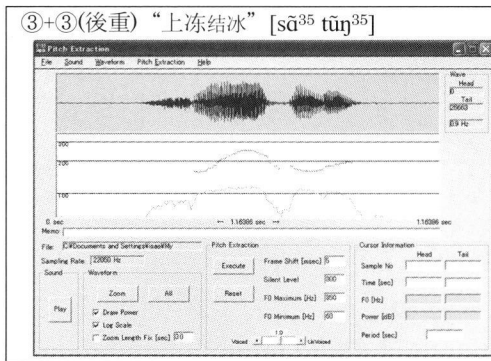
③+①(後輕 c) “下头” [ɕia³⁵ t'au³¹⁻⁵³]



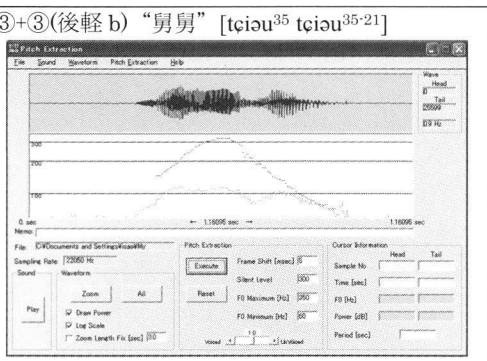
③+②(後重) “右手” [ɕiɔ³⁵ sɔu⁵³]

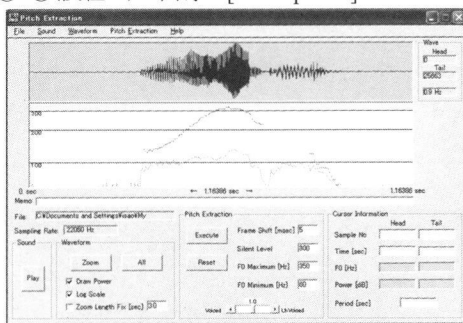
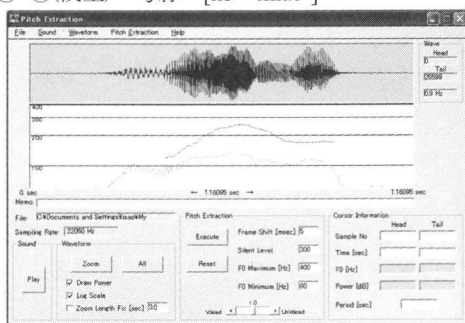
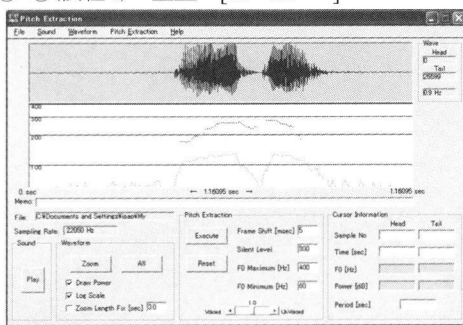
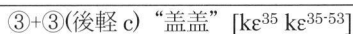
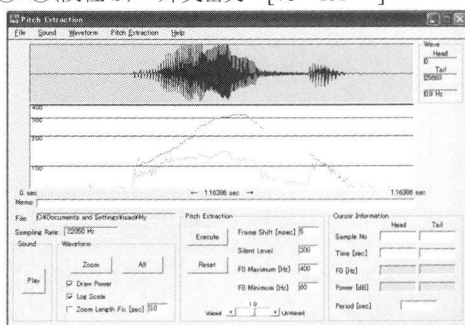
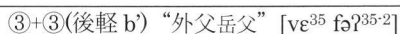
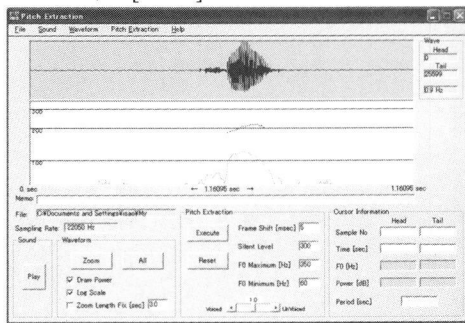


③+③(後重) “上冻结冰” [sã³⁵ tũŋ³⁵]

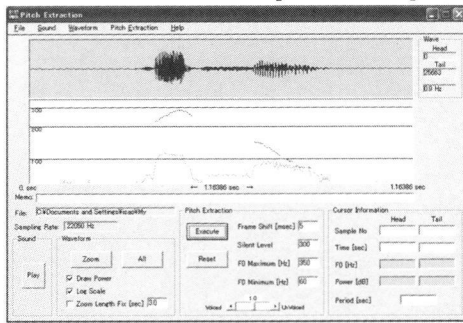
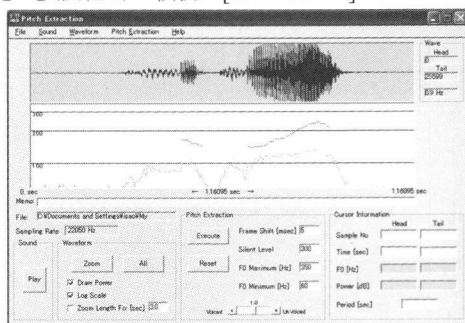
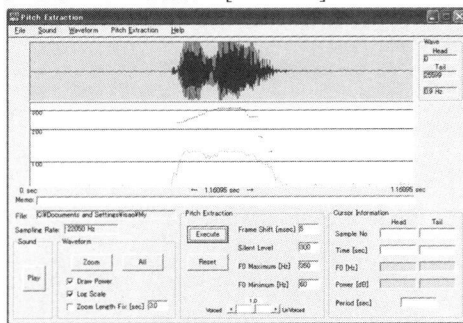


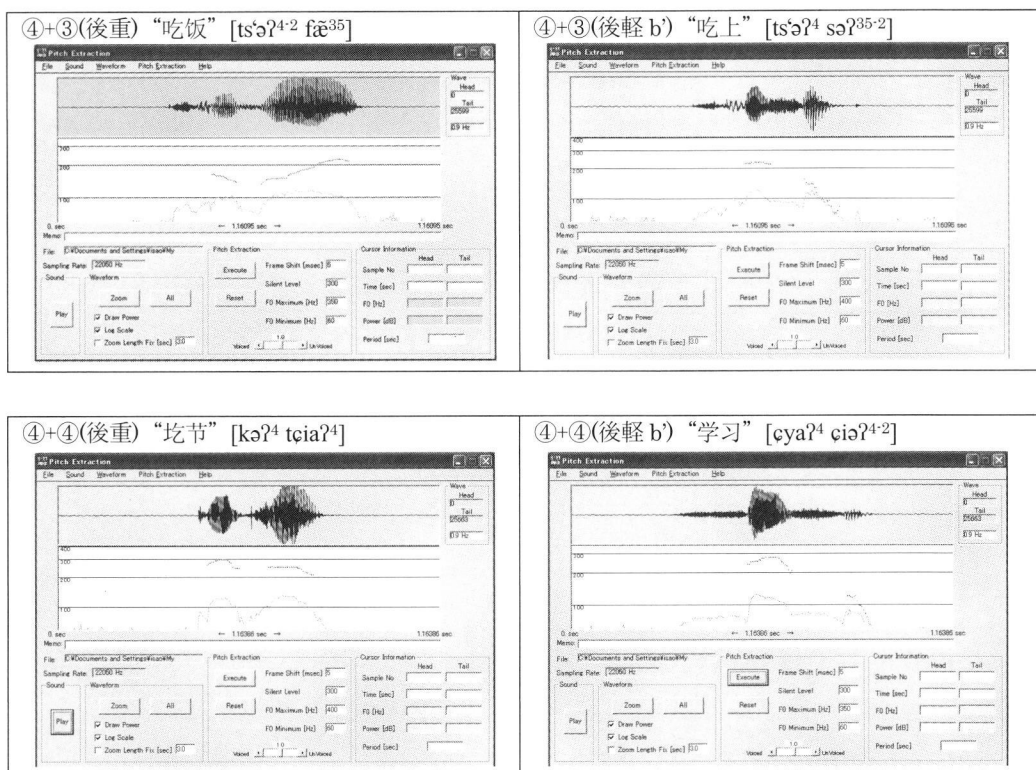
③+③(後輕 b) “舅舅” [tɕiɔu³⁵ tɕiɔu³⁵⁻²¹]



单字④ “桌” [tsuaʔ⁴]

④+①(後重/後輕 b) “昨天” [tsuaʔ⁴ tʰie³¹⁻²¹]

④+①(後輕 a) “核桃” [xəŋ⁴⁻² tʰɔ̃³¹⁻³⁵]④+②(後重) “圪欏杆” [kəʔ⁴ lǎ̃⁵³]



4. 分析結果

本稿では、韻母部分をその音節の長さとして測定した。

音響分析による調値は、石(1994:114)に従って、まず、各声調の始点・中点・終点の周波数(F0)各平均値を次の公式に代入して算出し、

$\frac{x-b}{a-b} \times 5$	<p>a = 全声調平均の最高周波数。</p> <p>b = 全声調平均の最低周波数。</p> <p>x = 各声調平均の各点における周波数。</p>
----------------------------	---

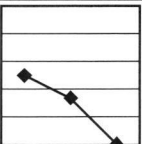
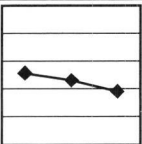
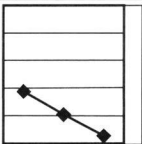
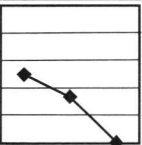
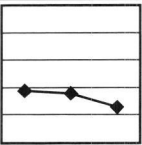
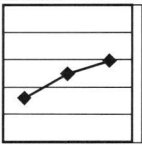
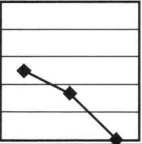
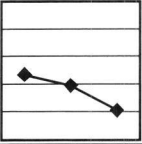
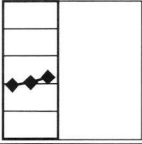
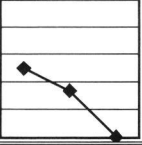
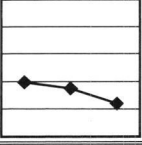
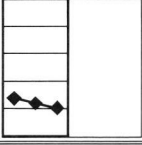
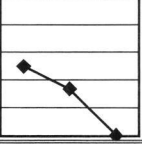
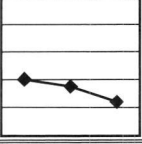
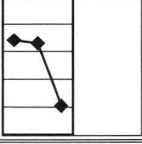
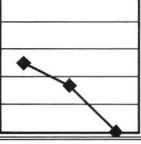
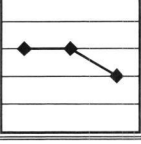
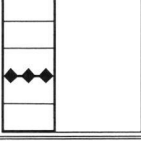
次に、得られた数値の0～1の間を1、1～2の間を2、2～3の間を3、3～4の間を4、4～5の間を5、とそれぞれし、3桁で表わした。

音節の絶対的な長さは捨象した。前字に対する後字の相対的な長さを「後字／前字」により算出し、前字の長さを1として後字の長さを図示した。但し、後字の方が長い場合は、後字の長さを1として、前字の方を短く図示している。

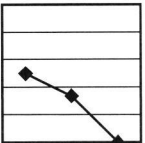
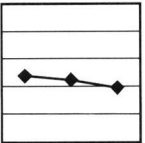
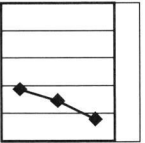
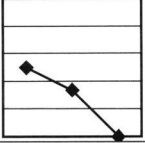
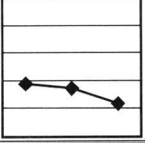
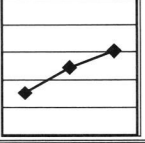
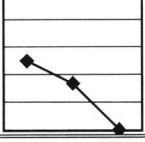
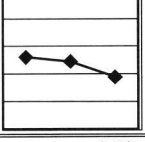
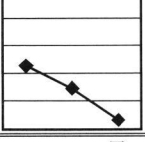
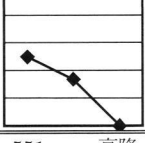
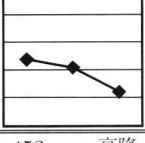
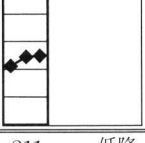
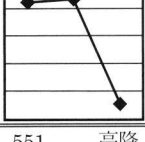
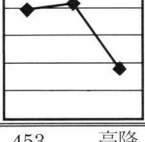
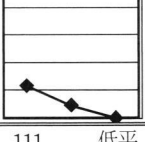
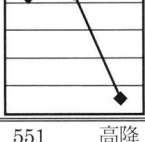
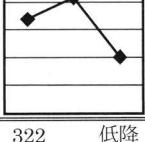
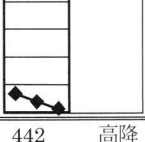
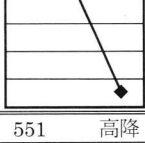
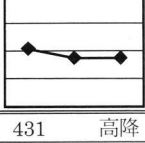
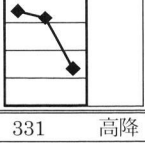
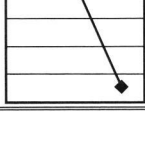
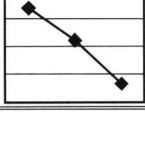
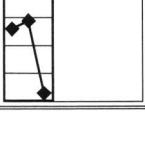
「①+①後重/後軽 b」・「①+②/③後軽 b」の前字①、「④+①後軽 a」の前字④は、単字調として現われる調素が後字轻声の前で変調しているので、これらについては、前字+後字の調形についてのみ、

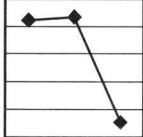
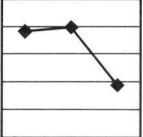
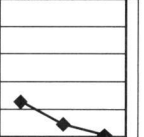
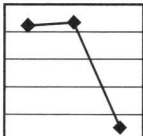
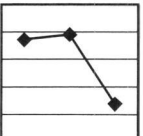
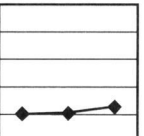
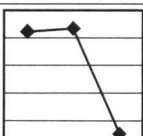
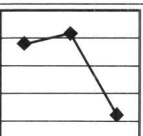
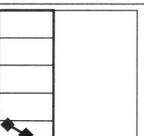
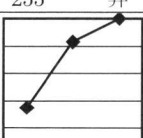
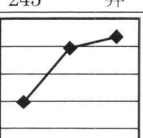
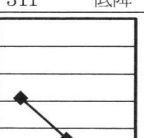


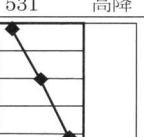
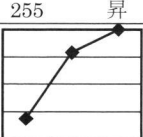
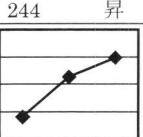
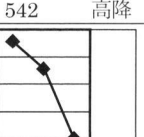

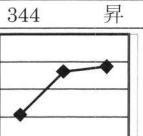
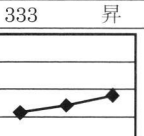

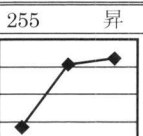
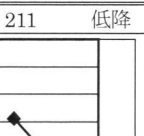
その他の場合に当てはめて述べる⁽⁴⁾。

以下では、後重のものも含めて全形式の分析結果を掲げ、0. で見た後字軽声の各タイプ，“Right Spreading”タイプ，“高降(High Falling)”タイプ，“低昇/高昇(Rising)”タイプ，“中平(Mid Level)”タイプおよび“既定値(Default Value)”保存タイプ，をそれぞれ“S”，“F”，“R”，“L” および “D” とする。

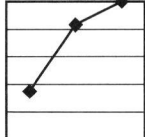

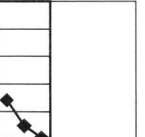
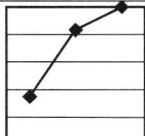
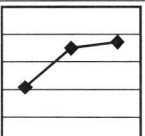
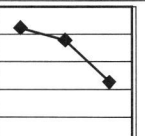
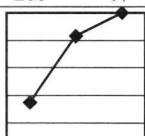
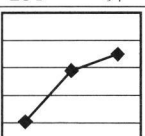
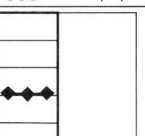
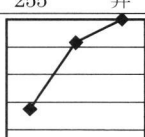
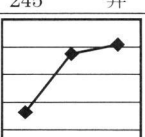
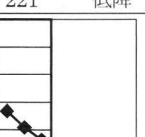
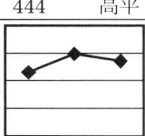




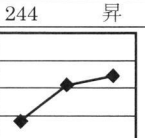
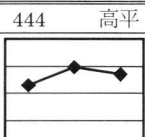


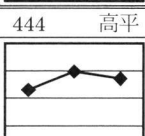
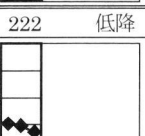

形式	タイプ ／語 例数	調値・調形			比	cf.記述調値 上:『音档』/下:筆者		
		単字	前字	後字		単	前	後
①+① 後重/ 後軽 b	— 29	321 低降	332 低降	221 低降	0.83	31	33	31
						31	32	21
①+① 後軽 a	R 10	321 低降	222 低降	233 昇	0.9	31	31	55
						31	31	35
①+① 後軽 a'	R 3	321 低降	322 低降	233 昇	0.4	31	31	0
						31	31	-74
①+① 後軽 b'	S/D 2	321 低降	222 低降	221 低降	0.48	31	31	0
						31	31	-72
①+② 後重	— 5	321 低降	322 低降	442 高降	0.5	31	33	53
						31	31	53
①+② 後軽 a'	R 1	321 低降	332 低降	222 昇	0.32	31	33	0
						31	31	-74

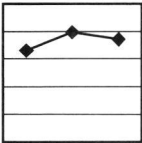
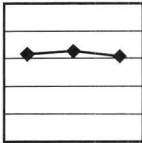
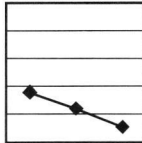
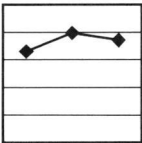
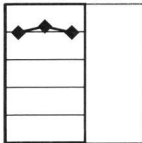

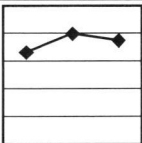
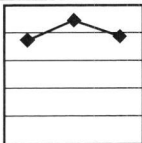
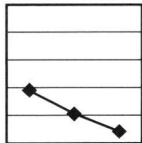
呼和浩特方言における単字調および“轻声”を伴う二音節語の調形

①+② 後軽 b	S/D 2	321 低降 	332 低降 	221 低降 	0.74	31 31	33 32	0 21
①+③ 後重	— 5	321 低降 	222 低降 	234 昇 	0.97	31 31	31 31	55 35
①+③ 後軽 b	S/D 1	321 低降 	332 低降 	321 低降 	1.07	31 31	33 32	31 21
①+④ 後重/ 後軽 a'	— 13	321 低降 	332 低降 	333 昇 	0.31	31 31	31 31	-743 -74
②+① 後重/ 後軽 b	— 10	551 高降 	452 高降 	211 低降 	0.96	53 53	53 53	31 21
②+① 後軽 b'	S/D 4	551 高降 	453 高降 	111 低平 	0.48	53 53	53 53	0 -72
②+② 後重 a	— 6	551 高降 	322 低降 	442 高降 	0.54	53 53	31 31	53 53
②+② 後重 b	— 1	551 高降 	431 高降 	331 高降 	0.38	53 53	31 53	53 53

②+② 後軽 b	S/D 5	551 高降 	452 高降 	211 低降 	0.89	53 53	53 53	31 21
②+③ 後重	— 3	551 高降 	442 高降 	122 昇 	1.02	53 53	53 53	55 35
②+④ 後重/ 後軽 b'	— 16	551 高降 	452 高降 	111 低降 	0.41	53 53	53 53	-?21 -?2
③+① 後重/ 後軽 b	— 10	255 昇 	245 昇 	311 低降 	0.97	55 35	55 35	31 21
③+① 後軽 c	F 3	255 昇 	245 昇 	531 高降 	0.61	55 35	55 35	53 53
③+② 後重	— 6	255 昇 	244 昇 	542 高降 	0.64	55 35	55 35	53 53
③+③ 後重	— 4	255 昇 	344 昇 	333 昇 	1.16	55 35	55 35	55 35
③+③ 後軽 b	D 7	255 昇 	255 昇 	211 低降 	0.73	55 35	55 35	53 21

呼和浩特方言における単字調および“轻声”を伴う二音節語の調形

③+③ 後軽 b'	D 3	255 昇	254 昇	211 低降	0.41	55 35	55 35	0 -72
								
③+③ 後軽 c	F 1	255 昇	344 昇	543 高降	0.94	55 35	— 35	— 53
								
③+④ 後重	— 1	255 昇	234 昇	333 中平	0.46	55 35	55 35	-721 -74
								
③+④ 後軽 b'	— 16	255 昇	245 昇	221 低降	0.39	55 35	55 35	-721 -72
								
④+① 後重/ 後軽 b	— 18	444 高平	455 高平	321 低降	3.66	-743 -74	-743 -74	31 21
								
④+① 後軽 a	R 4	444 高平	322 低降	244 昇	3.11	-743 -74	-721 -72	55 35
								
④+② 後重	— 10	444 高平	444 高平	542 高降	3.22	-743 -74	-743 -74	53 53
								
④+③ 後重	— 10	444 高平	222 低降	234 昇	3.31	-743 -74	-721 -72	55 35
								

④+③ 後軽 b'	D 1	444 高平	444 高平	221 低降	1	-?43	-?43	0
						-?4	-?4	-?2
④+④ 後重	— 4	444 高平	454 高平	443 高平	1.79	-?43	-?43	-?21
						-?4	-?4	-?4
④+④ 後軽 b'	D 21	444 高平	454 高平	211 低降	0.99	-?43	-?43	-?21
						-?4	-?4	-?2

「①+①後重/後軽 b」・「①+②/③後軽 b」の前字①, 「④+①後軽 a」の前字④は, 単字調として現われる調素が後字軽声の前で変調している。

後字調形が“高降”である「③+①後軽 c」, 「③+③後軽 c」2形式は, Fタイプである。

後字調形が“昇”である「①+①後軽 a」, 「①+①後軽 a'」, 「①+②後軽 a'」, 「④+①後軽 a」4形式は, Rタイプである。

後字調形が“低降～低平”である「①+①後軽 b'」, 「①+②後軽 b」, 「①+③後軽 b」, 「②+①後軽 b'」, 「②+②後軽 b」, 「③+③後軽 b」, 「③+③後軽 b'」, 「④+③後軽 b'」, 「④+④後軽 b'」9形式は, Dタイプであるが, うち前5形式は, Sタイプであるとも解釈できる。

「後軽 a」(後字 35)は、前字①(Rタイプ)では後字の方が短い、前字④(Rタイプ)では後字の方が長い。

「後軽 a'」(後字・?4)は、後字の方が短い。

「後軽 b」(後字 21)は、前字①・②(S/Dタイプ)・③(Dタイプ)とも後字の方が短い(「①+③」を除く)。

「後軽 b'」(後字・?2)は、前字①・②(S/Dタイプ)・③(Dタイプ)とも後字の方が短い、前字④(Dタイプ)では前後字がほぼ同じ長さである。

「後軽 c」(後字 53)は、後字の方が短い。

前字入声(④)の場合は、後字が[-?]を伴わない場合は、「後軽」でも後字の方が長く、後字が[-?]を伴う場合は、「後重」では後字の方が長く、「後軽」では前後字がほぼ同じ長さである。

呼和浩特方言における単字調および“軽声”を伴う二音節語の調形

	前字調類	タイプ	前字の長さ		後字の長さ
後軽 a (後字 35)	①	R		>	
	④	R		<	
後軽 a' (後字・?4)	①	R		>	
後軽 b (後字 21)	①	S/D		>	
	②	S/D		>	
	③	D		>	
後軽 b' (後字・?2)	①	S/D		>	
	②	S/D		>	
	③	D		>	
	④	D		=	
後軽 c (後字 53)	③	F		>	

注

- (1) 扱った 13 種は以下の如くである：北京・哈爾濱・合肥・済南・蘭州・南京・青島・天津・烏魯木齊・武漢・西安・銀川・鄭州。
- (2) 記述資料(邢 1998)では“軽声”とはしていないが、二音節語の前字が決まると、その後字が、元の声調に関わらず中和されて、同一の調値を取るものを、本稿では軽声として扱う。
- (3) 音声データとしては「現代汉语方言音庫」(侯精一主编, 上海教育出版社)『音档』付属カセットテープの音声を、また、音声分析ソフトとしては「音声録聞見 for Windows」(東京大学医学部音声言語研究施設, C&D テクノロジーズ株式会社)を、それぞれ用いた。
- (4) 石(1988: 101)参照。「前字単字調和轻声语音词不直接发生关系的, 如北京上声和“老虎”[35+2]类轻声语音词、安庆入声和轻声语音词, 则只考虑其变调调值跟轻声后字在音高上的关系, 不追究其本调和变调之间的演变过程, 所以, 北京“老虎”这样的轻声语音词就可以归入阳平开头的轻声语音词来进行讨论。」

参考文献

- 樋口勇夫 2004a「漢語北方方言における単字調形と後字軽声二音節語調形との関係」, 平成 13-15 年度科研費基盤研究(C) 研究成果報告書『漢語諸方言における語声調の実験音声学的研究』, 62-78 頁。
- 樋口勇夫 2004b「昆明方言における単字調および“軽声”を伴う二音節語の調形」, 『名古屋学院大学論集－人文・自然科学篇－』41-1, 7-18 頁。
- 樋口勇夫 2004c「成都方言における単字調および“軽声”を伴う二音節語の調形」, 『名古屋学院大学論集－言語・文化篇－』16-1, 53-68 頁。
- 樋口勇夫 2005a「貴陽方言における単字調および“軽声”を伴う二音節語の調形」, 『名古屋学院大学論集－言語・文化篇－』16-2, 17-30 頁。
- 樋口勇夫 2005b「太原方言における単字調および“軽声”を伴う二音節語の調形」, 『名古屋学院大学論集－人文・自然科学篇－』42-1, 13-32 頁。
- 樋口勇夫 2005c「平遥方言における単字調および“軽声”を伴う二音節語の調形」, 『名古屋学院大学論集－言語・文化篇－』17-1, 53-76 頁。
- 侯精一 1986「内蒙古晋语记略」, 『中国语文』第 2 期, 116-123 頁。

岩田礼 1999 「论北京方言和连云港方言的高降轻声及其历史含义：兼论吴语广用式变调的语音特征」，《第五届汉语语言学国际研讨会论文集》，139-164 頁，文鹤出版有限公司。

岩田礼 2001 「中国語の声調とアクセント」，《音声研究》5-1, 18-27 頁，日本音声学会。

刘文秀、刘晓冰 2000 『呼和浩特方言辨正』，内蒙古人民出版社。

石锋 1994 「关于声调分析的几个问题」，《语音丛稿》，111-122 頁，北京语言学院出版社。

石汝杰 1988 「说轻声」，《语言研究》第 1 期, 98-109 頁。

汪化云 2003 「自主的轻声和非自主的轻声」，《语文研究》第 1 期, 50-54 頁。

魏钢强 2000 「调值的轻声和调类的轻声」，《方言》第 1 期, 20-29 頁。

邢向东 1998 『呼和浩特语音档』，侯精一主编，上海教育出版社。